



ハイタカ

ユーラシア大陸の温帯から亜寒帯にかけて広く分布。川辺川流域では9月中旬から4月下旬にわりと普通に見られる。



キュウシュウフクロウ(幼鳥)

平成17年に五木村(頭地地区)にて繁殖が確認されたキュウシュウフクロウの幼鳥。



ジョウビタキ

熊本県では一般的に「ひんかち」と呼ばれる。日本は冬鳥として渡来し、10月中旬から4月上旬にかけ、人家近くや川べり、林縁などで普通に見られる。



リュウキュウサンショウクイ

熊本県内では主に冬、10月中旬から3月中旬に見られる。ヒリヒリッ、ヒリヒリッと鳴きながら飛ぶ。



ゴイサギ

川辺川流域でもよく見るサギ類の一種。夜行性で「夜ガラス」とも呼ばれるが、安全な場所では日中活動するものもいる。



シジュウカラ

日本では、北海道から九州にかけての日本各地の平地から山地の森林に留鳥として生息する。



ヒヨドリ

川辺川流域では「ひよ」と呼ばれ、流域全体で普通に見られる。南方系森林性の鳥で、日本が分布の北限。近年は山地よりむしろ、市街地の方でよく見かける。



ビンズイ

日本では北海道・本州・四国の山地で繁殖し、九州以南へは冬鳥として渡来。川辺川流域では10月中旬から4月中旬にかけて見られる。



モズ

人家近くの田畑のへり、川べりなど、わりと開けた場所に生息する。ほとんど年中見ることが出来る。



ホオジロ

流域各地の林縁や草地、若い植林地など日当たりのよい場所で普通に見られる。五木村では「びんたじろ」と呼ばれる。



アオバズク

4月下旬から9月下旬にかけて、樹洞のあるような大木のある林で見られる夏鳥。川辺川流域では「ねこどり」と呼ぶ地方もある。



ヤマガラ

日本では、北海道から九州に掛けてのほぼ全国の森林に生息する。川辺川流域の一部地域では「あかしじゅうから」とも呼ばれる。



キウシュウフクロウ

生態系の頂点に位置するフクロウは、数少ない貴重な鳥類です。翼を開くと1m以上にもなり、主にノネズミを捕食する。



クマタカ

生態系の頂点に位置するクマタカは、数少ない貴重な鳥類です。翼を広げると1.5m以上にもなる大型のタカで、日本産のタカ類では最大です。